

進路だより

令和3年7月16日
都立中野特別支援学校
第2号
校長 和田 慎也
担当 小田原 紀子

【専任より】

■『やる気スイッチ』

♪『やる気スイッチ』 君のはどこにあるんだろう～♪

皆さんの『やる気スイッチ』は、どこにありますか？ 私の『やる気スイッチ』は…？

『やる気スイッチ』がONになると、彼らは大きく変わります。したがって、私たち教員は、日々の学校生活の中で、彼らの『やる気スイッチ』を探しています。でも、見つからないこともあります。

先日、高等部2年生のミニ実習の引率で、福祉施設に行ってきました。高等部に入学して初めての实習ということもあり、彼らの緊張感が伝わってきます。しかし、実習も2日目ともなると慣れが生じ、指示された仕事に対して、「やりたくない！」と拒否する場面が見られました。そんな時、『やる気スイッチ』が見つかりました。

2日目の午後、特殊な工具を使って、金属の缶の蓋を取る仕事を行うことになりました。工具の刃先を缶に当てて穴を開けようと試みるも、なかなか穴を開けることができません。缶の蓋を何とか開けようと、缶が滑らないように足で固定したり、工具の刃先に力が直接伝わるように、力の入れ方を変えたりするなどの工夫が始まりました。そこに、実習先の方々の応援が加わったことで、一人で穴を開けることができました。

「次もやりたい！」

彼らの『やる気スイッチ』がONになりました。

午前中は、「やりたくない」と拒否する場面もありましたが、次の作業を要求するようになりました。また、工具の扱い方も慣れてきたことで、穴を開けるスピードが上がってきました。

「先生、またやりたい！」

実習終了後の彼らは、自信と達成感で満ちあふれた顔をしていました。

『やる気スイッチ』は、いろいろな場面に潜んでいます。『やる気スイッチ』を探してみませんか？

(田邊)

【専任より】

■高等部卒業までに必要な力

進路先の方や保護者様と話をする中で、「社会の中で生き生き生活するためには何が必要か？」ということがしばしば、話題になります。

もちろん、本人の力や社会資源が必要になってきますが、その中で「自己肯定感」というのが、どこの卒業先でも挙げられます。「自己肯定感」＝「必要とされること」であると私は思います。では、どのようにしたら「自己肯定感」を高めることができるのでしょうか？

「これ」といった答えは残念ながらありませんが、「役割」をもつことが大切なポイントであるように思います。そこで、児童・生徒に家庭内の大切な「役割」を一つ与えてみるのはいかがでしょうか？この「役割」をこなしていくことの積み重ねが「自信」になり、「自己肯定感」を高めていくことにつながると思います。そして、「役割」を達成できたときには「ありがとう」という言葉も伝えてあげてください。

社会に出ると「役割」を果たすことが仕事になるので、「ありがとう」と言われる経験も減ってしまい、「自己肯定感」を高めるきっかけも少なくなってしまうと思います。在学中のできるだけ早いうちに様々な「役割」をこなし、結果として自信をもつことで、「自己肯定感」を高められると良いですね。(吉田)

【保護者向け進路研修会の御報告】

6月に、「保護者向け進路研修会」をオンラインで実施いたしました。当日、御視聴いただきました保護者の皆様、ありがとうございます。また、ネット回線の不具合や進行の不便等で、御不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

当日、御視聴いただけなかった保護者の皆様に向けて、録画したものを公開しております。「視聴の仕方」(別紙配布)を御覧になり、御視聴いただきますようお願いいたします。

【小学部】

1学期に予定していた5、6年生の就業体験は残念ながら中止になりました。予定していた6月に5、6年生は主事さんに掃除の仕方を教えていただき、廊下等を掃除する経験をしました。ハンディタイプの掃除機を使った掃除はとても上手になり、家庭でのお手伝いにつながると思いました。また、進路部の専任による出前授業も行いました。卒業生が働いているVTRを観たり、将来、働くために大切なことの3つ「挨拶」「身だしなみ」「報告」を覚えてもらったりしました。他学部の先生が来てくれたことで、子ども達は気が引き締め、働くことに興味をもつことができました。

(小田原)

【中学部】

2年生は6月からの職業の授業で、『校内清掃』として階段やスロープの手すりや柵の清掃活動を行っています。まずは雑巾の正しい絞り方の練習を行いました。改めて“正しく”絞ることの大切さを実践の中で学んでいました。手すりや柵をしっかりと拭き上げていくと、バケツの水はすぐに真っ黒に汚れ、自分達の成果を目の当たりにすることができました。そのことが更なるやる気につながり、とても集中して活動することができました。『校内清掃』を通じて、働くことの大変さだけでなく、感謝される喜びも感じる事ができたようです。



(大谷)

【高等部1年】

1学期は、“職業”の授業の中で1年生の進路テーマである「知る」に沿って、自分はもちろんのこと、友達や先生、仕事を知る学習に取り組みました。友達や先生の顔や名前を覚えたり、自分や友達の良いところ、これから頑張りたいことを発表しあったりしました。2年生、3年生のミニ実習や現場実習の面接で、質問されたときに自分をしっかりPRすることにもつながります。

また、挨拶の学習も毎回行っています。挨拶の言葉を一緒に復唱し、お辞儀を行います。挨拶は大声を出す練習ではなく、「語先後礼」を合言葉に意識して取り組んでいます。語先後礼が定着してきました。

あわせて黄色グループでは、職場のマナーとしての『身だしなみチェック』を行った後、働き方を「知る」ために『ワークトレーニング』に取り組んでいます。ピッキング作業やマッチング作業、組み立て作業などを継続的に体験することで作業効率が向上し、終了報告もできるようになってきました。

夏休みには、6月に進路研修会の資料として配布しました「福祉事業所の一覧表」を参考にさせていただき、ぜひ福祉事業所ってどんな所なのだろう？と見学をしていただければと思います。3年生になって慌てないように、早くから情報を得て進路について「知る」ことにつなげていきましょう。

(黒澤 宗形)

【高等部2年】

いよいよミニ実習が始まりました。昨年度から、校外に出る様々な行事が中止となり、第1回職場見学以来の校外行事となりました。公共交通機関を使ったり、長い距離を歩いたり、実習先での活動以外の場面でも、生徒一人一人の強みや課題を見つけることができました。以前よりお伝えしておりますように、このミニ実習のテーマは「チャレンジ！」です。学校では、「できること」「もうちょっとでできそうなこと」に取り組むことが多いのに対して、実習では「現時点ではできないこと」にチャレンジすることもあります。そのような場面で、生徒自身が「できるようになりたい！」や「初日よりちょっと上手にできた！」という思いをもつことで、家庭や学校での様子が変わってきます。また、教員も引率する中で、「こんな支援があったらできそうだな」とか「こういう作業が得意だな」といった発見をし、それを学校に持ち帰って、学習にフィードバックするようにしています。

(和泉 岸)

【高等部3年】

5月の下旬に開始した1学期の現場実習も終了が近づいてきました。保護者のみなさまには、御多忙の中にも関わらず面接の出席等ありがとうございました。ほとんどの生徒が1～2か所の実習先に行くことができ、それぞれが新たな課題を受けて学校へ帰ってきています。実習後は実習先からの評価を受けて、今後の方向性を確認するための面談をしています。今後の進路を迷う方、不安になる方もいらっしゃると思いますが、その都度相談しながら進めていきましょう。疑問や、御不明な点はすぐに御相談ください。夏休みには、ぜひ、家事分担や公共交通機関を使った外出などの経験を積んでください。その経験を2学期の現場実習に生かしていきましょう。

(本橋 江川)